

祭事報告

▼年越大祓

十二月三十日



毎年二回行われる大祓神事の後期分にあたります。まずは殿内にて大祓詞を奏上し、その後拝殿前にて、皆様の罪・穢が託されました人形を、忌み火でお焚き上げ致しました。

▼元旦祭

一月一日

午前零時、国の隆昌と世界の恒久平和を願い肅々と齋行致しました。

▼左義長

一月十五日

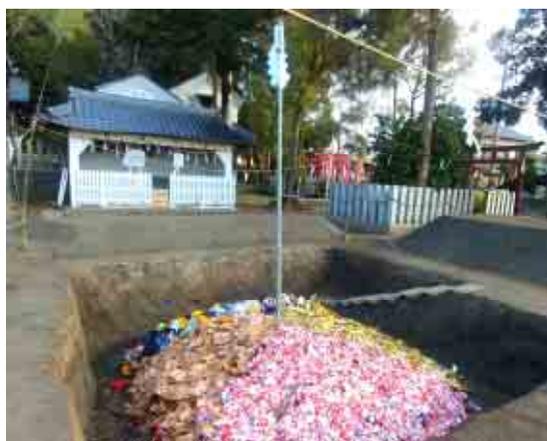
当日は天候も良く、多くの方がご参列される中、境内に設置された火炉前にて神事を滞りなく齋行し、昨年一年間お護り戴きました御神符や御守り、注連縄・縁起物などに感謝申し上げ、忌火にてお焚き上げを致しました。

本年も昨年同様、皆様のご理解のもと、昼頃には焚き上げを納めさせて頂きました。



▼浄火祭

二月三日



毎年節分に行われ、昨年中にご祈禱を受けられた方が、ご神前に捧げられました金幣串やご自宅の神棚等に奉られました紅白串を始め、皆様が祈願奉納されました絵馬や帽子を忌火にて焚き上げ、諸願成就・厄祓いを願う齋行される神事で、神職等により大祓詞が奏上される中、氏子区域から選ばれた厄男等が「何某、心願成就」と唱えながら、絵馬や金幣串を火の中へくべてゆきました。

神事終了後には、ご自宅で不要になったお帽子に感謝の祈りを捧げ、火炉の中へ投げ入れる方が多くお見えでしたが、浄火祭もまた、皆様のご理解のもと、お昼頃には焚き上げを納めることが出来ました。

▼祈年祭

二月十六日

祈年祭は、としごひのまつり、とも言われ、三大祭(他には、例祭・新嘗祭)の一つとして重要なお祭りとされ、古来より行われております。

今年の五穀(米・麦・粟・豆・稗)豊穰を祈り、あらゆる産業や工業の発展と皇室・国家の安泰を願いました。

▼鍬山神社例祭

三月十七日

境内社として本殿の北東に鎮座し、伊勢神宮の外宮(豊受大神)をお祀りしております鍬山神社の例祭を、滞りなく齋行致しました。

▼例大祭

四月二日

本年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、お神輿を始め、境内の特設舞台での子供たちの打ち囃子や演芸、また参道脇の出店などは全て中止し、神事のみお仕えする形となりました。



外出自粛中と言う事もあってか、いつもは朝から賑わう境内も静まり返り、本当に例大祭当日なのかと思ってしまうほど閑散としており、神事が始まる午後三時も、境内に参拝者の姿はありませんでした。

神事は、岐阜県神社庁長をお迎えし、例年通り滞りなく斎行されました。

夜に行われる本楽祭は、境内に掲げた提灯に火を灯し、昨年の奉納時に録音された打ち囃子を流す形で行われ、何とも寂しい例大祭は納められました。

来年は、例年通り賑やかな例大祭が行われることを祈ります。

▼南宮神社例祭

五月四日

相殿社として本殿東側に鎮座し、金山彦命をお祀りする南宮神社の例祭を斎行致しました。

▼お田植祭

六月十日

境内の神饌田前にて神事を執り行い、宮司により早苗が植え付けられました。収穫される稲は新嘗祭でお供えし、お下がりとしてお頒ちされます。

▼月次祭

毎月一日・二十日

ご奉納頂きました

▽令和二年五月、大阪府の円城寺政代様と海津市の中村とみ子様よりご寄付を賜り、本殿・拝殿内に雪洞（置き型一對、柱掛け型四灯）を新調し、殿内天井の電気器具をLEDに変更させて頂きました。



〈拝殿より撮影〉

本来なら、例祭までに整え終わる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響から製作等が遅れ、五月中の設置となっていました。

これまでは、曇天や雨天時の殿内は非常に薄暗い状態でありましたが、今回のご奉納により、天候に関係なく明るく清々しい殿内にて、御祈禱や祭典をお仕えする事が出来るようになりました。



〈置き型雪洞〉



〈柱掛け型雪洞〉

この場を以ちまして、改めて御礼申し上げます。

『日本書紀と疫病』

新型コロナウイルスの恐怖が世界中を震撼させておりますが、日本書紀の中にも疫病の記録が記されており、その疫病の流行が切っ掛けで、後に伊勢の地に天照大御神をお祀りする事となった話をご紹介します。

第十代天皇である崇神天皇五年、巷で疫病が大流行しました。当時の人口の凡そ半数が亡くなり、その翌年には犯罪などが多発し、世の中が大混乱に陥りました。その頃の宮中では、天照大神と倭大国魂神の二柱の神をお祀りしておりましたが、いづれも大きな力を持つ神であったため、同所にお祀りするには恐れ多く、疫病の原因であり国が乱れる元凶であるとの噂がたちました。

そこで崇神天皇は、二柱の神を別所へ祀ることで疫病を治めようと、皇女の豊鍬入姫命と淳名城入姫命にそれぞれ天照大御神と倭大国魂神を祀るように命じました。しかし、淳名城入姫命はすぐに体調を崩しお祀りすることが出来なくなりました。

その後も、占いを行い大物主神をお祀りしたりと手を尽くしましたが、疫病が治まることは有りませんでした。そんな中、夢の中に現れた大物主神が、私（大物主神）と倭大国魂神をそれぞれ、太田田根子と市磯長尾市に祀らせよとお告げになり、早速その通りにしたところ、長らく続いた疫病を始とする混乱も収まりました。この時、崇神天皇七年でした。

時は流れ、垂仁天皇（第十一代天皇）の時代、天照大御神を祀る役目が垂仁天皇の皇女である倭姫命へと引き継がれました。倭姫命は、天照大御神の御心にかなう、より麗しい場所を求め旅に出ました。大和国から、伊賀、近江、美濃、尾張と巡り最終的に今の伊勢の地に辿り着き「伊勢の国は常世の国からの波が幾重にも寄り来る国で、辺境なれどとても美しい国であり、ここに鎮座しよう」と定め、そこが今の伊勢神宮となりました。崇神天皇時代の疫病は、一説では天然痘ではないかとも言われています。因みに日本における天然痘の流行は、七三五年頃に記録

が有り、日本における最後の感染確認がつい最近の一九五五年だそうです。また、安政五年にはコレラが大流行し、凡そ五十年後の明治三十五年に初めての予防接種が行われたと聞きます。コレラで亡くなる方は未だ少なくは有りませんが、予防・治療が出来ない病気では無くなっております。

医療技術の発達した現代、一刻も早く新型コロナウイルスの予防や治療が確立し、その脅威が薄れる日が来ることを祈るばかりです。しかし乍、その日が来るまでは、我々は新型コロナウイルスと上手く共生して行かなければならないのかも知れません。

今一度、自らの行動を見直し、移されないよう・移さないよう気を付けながらの生活を送りましょう。



その昔、豊作や疫病を予言した妖怪アマビエ

御首神社ホームページ
神職への質問Q&A

問 この前、神社で絵馬を書いたのですが、その時に居なかった友人の分も代わりに書きました。友人になりすまして絵馬を書く事は、神様に対し失礼に当たらないでしょうか。



答 ご友人の意思を託され、代理で絵馬を書く事は、失礼に当たたる事は無いでしょう。

今後は、ご自身の願いとしてご友人の心願成就を願うような書き方や、絵馬を受ける際に神社の方に確認した上で、絵馬を持ち帰り、本人が書いたものを後日納めに参るといった方法も考えてみてはいかがでしょうか。

夏越大祓のご案内

八月九日、当社社では恒例の夏越大祓を執り行います。

大祓は、日常生活において知らず知らず受け犯している罪や穢れを人形（ひとがた）に託し、祓い清め、心も身体も清々しく、病にかかることなく、毎日を無事健康に送れますことを切に願います。一年に二度（夏越・年越）執り行われる伝統的な神事です。

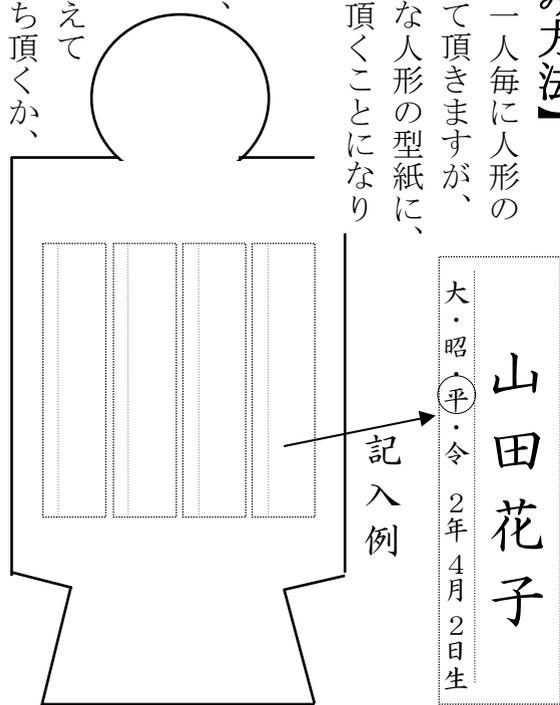
今年の夏越大祓は、新型コロナウイルスの感染予防を鑑みまして、申込方法を変更させて頂きました。詳しくは左記の申込み方法を参照下さい。

古来より伝わる大祓に申し込まれまして、ご本人はもとよりご家族皆様も心も身体も祓い清め、この夏を大神さまの広大無辺のお護りのもとに健康な日々をお過ごし頂きたく、願う次第でございます。

【申し込み方法】

例年は、お一人毎に人形の型紙に記入して頂きますが、今年、大きな人形の型紙に、ご一緒に記入頂くことになりました。

- 人形の型紙にご記入の上、申込み封筒に入れ、初穂料（お志）を添えて社務所にお持ち頂くか、郵送で申込み下さい。



● 型紙・申込み封筒は社務所にも用意してあります。

祭事案内

▼西宮神社例祭

七月十七日

兵庫県西宮市の西宮神社の御分霊（蛭子命）を御祭神とする相殿社の例祭です。

蛭子命は、商売繁盛・事業繁栄等の御神徳がございます。

▼末廣稻荷神社例祭

八月九日

京都の伏見稻荷大社より御分霊を賜り（宇迦之御魂神）、境内の東側に御鎮座しております末廣稻荷神社の例祭です。

▼長寿祈願祭

九月十五日

氏子地域にお住まいの長寿会の皆様をお招きして、更なるご健康とご長寿を祈願致します。

▼神明神社例祭

十月十七日

当社の境内社として本殿の北西に鎮座し、天照大神をお祀りする神明神社の例祭です。

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば靈験あらたか」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させていただきます。

会員の特典（抜粋）

- ・ 入会報告祭の実施
- ・ 誕生特別祈禱の実施
- ・ 及び祈禱神符の授与
- ・ 主要祭典のご案内
- ・ 昇殿参拝

会員の種類と年会費

個人	三千円
家族	五千円
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

〈お問い合わせ先〉
神社社務所まで

〇五八四一九一―三七〇〇

祭事案内

▼七五三

十月

七五三のお祝いは、平安時代の頃より公家の間で、三歳から七歳位にかけて男女の祝いの儀式が行われて来た事が始まりと言われております。現在では三歳・五歳・七歳と言う成長の節目に神社へ参拝し、これまでの無事成長を感謝し、これから先の健やかな成長を願う儀式として行われております。

一般的に七五三のお参りと申しますと、十一月十五日に行われます。その期日の起源につきましては諸説ございますが、江



令和2年 七五三

	数え歳	満年齢
7歳	平成 26年 生まれ	平成 25年 生まれ
	平成 28年 生まれ	平成 27年 生まれ
	平成 30年 生まれ	平成 29年 生まれ

戸時代に五代將軍徳川綱吉が長男の徳松の成長を願って氏神様へお参りしたのが、十一月十五日であったとされ、その後広く庶民に広がったと言われております。

お祝いの年齢は、古くから数え歳でありましたが、現在では満年齢で数えられる方も沢山お見えます。また、男女関係無く三歳・五歳・七歳でお参りされる方も増えてまいりました。右に記載の年齢表をご参考の上、ご都合に合わせてご参拝下さい。

尚、七五三のご祈禱は十月から年末にかけて随時お仕え致しております。(予約不要)

▼崇敬会大祭

十一月三日

当神社崇敬会会員の皆様の無病息災・家内安全・生業繁栄・子孫繁栄を願い行われます。

当日は、県内外より多くの会員の方が集まり、会員皆様それぞれ交流を深めておられます。また、ご参列の会員の皆様には大祭祈禱神符および記念品が授与されます。(一家族一体授与)

▼新嘗祭

十一月二十三日

三大祭の一つとして古来より大切にされてきた神事で、その年の五穀豊穰への感謝をし、初物を神様に食して頂き、併せて皇室のご安泰、国家の安寧を願います。

境内の神饌田にて収穫される御初穂もご神前にお供え致します。尚、この初穂はご祈禱のお下がりとして授与しております。

▼月次祭

毎月一日・二十日

末廣稻荷神社 参道幟 募集中

末廣稻荷神社参道の幟旗は、毎年末廣稻荷神社例祭(八月)とお正月に新調します。ご奉納頂きました幟は、約半年間に亘り参道に掲げられます。



八月取替予定の幟の申込にはまだ余裕がございますので、奉納ご希望の方は社務所までお申込下さい。随時先着順にて受付させていただきます。

*幟一對 初穂料 三千元

編集後記

未だ収束の目処が立たない新型コロナウイルスですが、一刻も早く皆様の安心が得られますよう、当社でも毎朝御祈願を致しております。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一

Eメール syamsyo@mikubi.or.jp

TEL(〇五八四)九一一三七〇〇